

「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機 関 名	お茶の水女子大学	整理番号	T02
プログラム名称	「みがかずば」の精神に基づきイノベーションを創出し続ける理工系グローバルリーダーの育成		
プログラム責任者	小川 温子	プログラム コーディネーター	古川 はづき

◇博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価（公表用）

[総括評価]

計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

[コメント]

グローバルリーダーを養成する学位プログラムの確立については、理学専攻、ライフサイエンス専攻の学生を対象とし、Project Based Team Study (PBTS) と 4 種類の Qualifying Examination (QE) を特徴としたグローバル理工学副専攻学位プログラムが整備されたことは評価できる。本プログラムは①異分野基礎教育、②英語、教養、キャリア教育、③チーム力強化 PBTS などの体系的コースワークからなり、グローバルに活躍する女性リーダーへ導く一貫した学位プログラムとなっている。特に、7 人の外国人教員と専任教員がサポートしている PBTS においては、専攻の異なる学生が協働してプロジェクトに取り組むことにより、俯瞰力や課題解決能力を身に着けるとともに、英語によるディスカッションを通じてプレゼンテーション力を身に着けていることが認められる。

修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の可能性については、PBTS を通じた汎用力の育成、QE 評価による学生の自己成長の実感、及び多様な外国人教員による教育や連携する学外機関のプログラム運営への参画等により、実践に根付いた基礎力と広い視野を持つグローバルリーダーが育つことが期待される。共同研究やインターシップを通じた学外からの学生に対する評価は高く、修了生の活躍が期待される。一方、学生の企業等でのインターシップについては、学生の自主性を尊重するとともに、本プログラムの積極的な支援の更なる拡充が望まれる。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、PBTS 指導教員やスタディコモンズ外国人教員らによるきめ細かい教育・支援及び国際ネットワークを活用したグローバル研修の実施により、グローバルな教育の体制と生活環境が整備されたと評価できる。本プログラムの趣旨と成果の理解・共有が大学全体に広がることによって、大学院教育改革が促進されることが期待される。

優秀な学生の獲得については、主に首都圏の女子大学や海外の大学・関係諸機関に対して広報活動を行うことにより、他大学出身者、留学生、子育て経験者の学び直しや社会人経験者等を含め、素質のある優秀な学生を確保しており評価できる。社会人経験者、子育て経験者の学び直し入学に対する取組は本学の特徴であり、本プログラムの優れた特色を学内だけでなく更に広く社会にアピールする活動等が定員充足につながることを期待される。

世界に通用する確かな学位の質保証システムについては、主専攻の研究科での学位審査基準による審査に加えて、副専攻の本プログラムで3種類の QE による進捗評価と最

終 QE による修了判定によってプログラムの修了を認める審査体制になっており、グローバルリーダーとしての資質能力を保証する仕組みが構築されている。また、半年ごとの QE 評価は、PBTS コースワークの実施を通じて得たチームの成長と学生個人の成長実感をフィードバックし、学生の動機付けと着実な成長に役立っている。さらに、QE が学外のプログラム担当者や有識者が参加する開かれた体制になっていることも評価できる。

事業の定着・発展については、ポスト博士課程教育リーディングプログラム将来構想 WG を設置し、本プログラムを大学院博士課程の副専攻と位置付けて、文系を含めた全学的学位プログラムとして導入することを検討している。今後、学長のリーダーシップの下、PBTS を中心とする問題解決型の大学院教育が文系の研究科・専攻を含めた全学的教育システムとして展開することが期待される。